

# 英語 授業づくり講座 ～大豊町立おおとよ小学校～

「大豊の文化を紹介しよう」 授業者 松井 智恵 教諭



発行  
令和3年8月6日  
中部教育事務所



## 単元 第6学年 Lesson 3 Welcome to Japan. 「好きな日本の文化」(教育出版)

領域別目標 「聞くこと」(イ) 「話すこと〔発表〕」(ウ)

### CAN-DO リスト形式の学習到達目標

「聞くこと」

イ ゆっくりはっきりと話されれば、身近で簡単な話題について、具体的な情報を十分聞き取ることができる。

「話すこと〔発表〕」

ウ 身近な事柄について、順番に気を付けながら、伝えたい内容を整理して、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどをスピーチすることができる。

### 単元目標

大豊町に赴任した CIR に大豊の行事や風物詩、食べ物などの文化について知ってもらうために、大豊の行事や風物詩、食べ物などについての短い話を聞いて概要を捉えたり、自分が伝えたい大豊の文化について、伝えようとする内容を整理したうえで、話したりすることができる。

※本単元における「聞くこと」については、目標に向けて指導は行いが、記録に残す評価は行わない。



### 単元の指導と評価の計画 (全7時間 本時6時間目)

時	目標	評価(評価方法)
1	日本や大豊の文化について、何が好きかを尋ねる表現や答える表現がわかる。	
2	日本や大豊の行事や風物詩、食べ物などの文化について、まとまりのある話を聞き、その概要を捉えることができる。	※1～5時は、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動においても、教師が児童の学習状況を確認する。
3	各月や季節に関連する日本や大豊の行事や風物詩、食べ物について、聞いたことや言ったりすることができる。	
4	行事や風物詩、食べ物などの文化を紹介する話を聞いて、その内容がわかったり、伝えようとする内容を整理したうえで話したりできる。	
5	大豊の行事や風物詩、食べ物などの文化について、自分の考えや気持ちなどを話すことができる。	
6	相手によりよく分かってもらえるように、大豊の行事や風物詩、食べ物などの文化について、自分の考えや気持ちなどを話すことができる。	話すこと〔発表〕【知・技】 (行動観察・録画動画)
7		話すこと〔発表〕【思・判・表】【態度】 (行動観察・録画動画・振り返りシート)

### 本時の展開

児童の活動	指導上の留意点
1 導入(あいさつ)	
2 Small Talk ゲストスピーカー(本時は5年担任)の話を聞く。	・教員の地元の文化について紹介する。
3 Activity 1 大豊の文化についてペアで伝え合う。	・前時までのウェビングを参考にさせる。
4 Activity 2 各ブースで教員に対して大豊の文化紹介を行う。	・児童の発表に質問や感想などを返す。
中間評価 学んだことや困ったことを共有する。	・既習表現を使って表現するよう促す。
5 Activity 3 整理し直して再度教員に大豊の文化紹介を行う。	・ウェビングに加筆・修正させる。
6 振り返り 振り返りを書く。	・振り返りの内容を全体共有する。

## 「高知の授業の未来を創る ～資質・能力ベースの授業づくりガイドライン 変える・つなげる・高める～」 外国語科における「学びをつなげる」授業づくりとは (高知県教育委員会 小中学校課 HP より)

領域別目標と関連付けられた学年ごとの学習到達目標を設定し、発達段階に応じて資質・能力を系統的に捉え、言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成することです。そのためには、小・中それぞれの段階でどのような言語材料を扱い、言語活動をしているのかを理解し、「英語を用いて何ができるようになるか」という観点から段階的に指導を行い、「見方・考え方」をさらに確かめ豊かなものにしていくことが大切です。

「学びをつなげる授業づくり」に向けて、おおとよ小学校は、①英語教育の理念の共有、②9年間の学びのつながりが意識され「資質・能力」「見方・考え方」を基軸とした単元開発、に課題を見出し、協議した。

### 教材研究会

全教員がチームで協議した目指す英語教育の理念と単元構想をプレゼン

### ①大豊学園に向けて、小・中連携して目指す英語教育とは？

#### “Our English Our Future”

##### A チーム「未来を拓くコミュニケーション能力」

- 異なるものの見方や考え方があることを認め合う英語教育
- 自己表現力を高める英語教育
- 気持ちが通じ合う言葉・ツールとしての英語教育 等

##### B チーム「光と力」

- 異文化や日本文化理解などに心に光を灯し、人間関係を構築するためのコミュニケーション「力」となる英語教育



### ②小・中の学びの連続性が意識され、「資質・能力」「見方・考え方」を基軸とした単元デザインになっているか？

小・中の学びの系統において、本単元における「情報を整理して話す」とは、そして「発表の仕方を工夫する」とは、何をどこまでできるようにすることなのか、どんな手立てが必要なのか、協議が深まった。

### 授業づくりのポイント

#### ①子供の学びの連続性を重視する

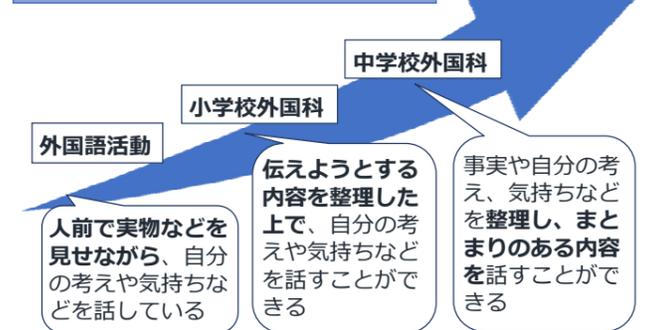
おおとよ小学校では、「話すこと〔発表〕」の小・中の資質・能力の系統を全員で確認し、本単元では特に「整理すること」に重点を置いて指導を行った。

総合的な学習の時間に用いてきた「思考ツール」を使って整理させたり、国語科で学習した「事実と感想、意見とを区別するなど話の構成を考えること」「目的や意図に応じて話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして検討すること」等の資質・能力を活用させたりするなど、他教科での学びと関連付けることで、効果的な指導が行われた。

#### ②単元を通して「見方・考え方」を成長させる

単元ゴールに向けて「見方・考え方」を成長させていくには、「どうすればもっとうまく伝えられるだろう」という問いを、児童自身が持ち続ける必要がある。児童が相手意識を持ちやすく、これまでに学んだ事や経験を活かして考えることができる単元ゴールを設定することで、児童が主体的に思考し続けられるよう工夫している。また、友達や先生とのやりとりによるフィードバックを基に、何度も自身の表現を再構築させるなど、単元を通して「見方・考え方」を働かせながら話すことができるよう工夫されている。

### 「話すこと〔発表〕」資質・能力の系統



### 参加者の声

児童の主体的な思考、豊かな表現のためには、題材設定が重要であり、相手意識・目的意識を持たせることが必要であることが理解できた。

言語活動を繰り返していくうちに、伝わったことが自信にもなり、もっとうまく伝えたいという意欲にもつながっていて、持続的に学んでいると感じた。

「整理すること」は児童が思考する上で重要なものである。(中間指導の視点を) コミュニケーションポイントで終わらせず、児童が伝えたいことを更に構築して伝えられる「整理」にしたい。